# 令和７年度　授業改善推進プラン　　＜教科名　社会　＞

小平市立小平第五中学校

**【生徒の実態】**

| | 第１学年 | 第２学年 | 第３学年 |
|---|---|---|---|
| 学力分析 | 小学校での学習内容や方法について、生徒間に大きな差が見られる。まず、授業の受け方、学習方法、知識、社会科的思考などについて、グループ学習などの場面で生徒同士が共有し、基礎をかためる必要がある。 | 学習習慣の定着や、思考の土台となる知識について、学力の向上や定着に向けて、全体的な底上げが必要である。教科書の文を理解するための読解力にも課題がある。 | ・社会科の土台となる地理・歴史の知識を粘り強く学習していく必要がある。公民的分野において、グループ学習を数多く行い、知識の定着や思考力を養っていく必要がある。 |
| 学習状況 | 授業に対する反応はよい。社会的事象について知りたい、学びたいという潜在的欲求は少なくないと考えられる。そのような資質をのばして「主体的な学び」につなげたい。 | 授業へ前向きに取り組もうとしている生徒が多い。一方で、家庭学習の習慣などについては今後改善が必要であると同時に質の確保も課題である。 | ・より主体的に学習する意識をもたなければ学力定着にはつながらないと考えられる。ただ受検を意識した生徒が増えており、学習の意識の変化に期待したい。 |
| 生徒アンケートの結果より | 全体的には、肯定的な評価が過半数に達している。特に項目２と項目６が高いことは資質をあらわしていると考えられる。これに対し、項目１・項目３・項目５は、定期テストや小テストの結果に対応しているように思われる。 | 「授業の始めにねらい（めあて）が分かり、授業の終わりに振り返り（まとめ）がされている。」の項目が他の項目に比べて低くなっていることがわかる。この点について改善が必要である。 | 「新たな気付きや発見、考えが広がったり深まったりする」ような授業計画を立てていく必要がある。歴史の内容が今後学習する公民の内容につながり、社会的思考につながるような授業を実施していきたい。 |

**【授業改善の手だて】**

| | 第１学年 | 第２学年 | 第３学年 |
|---|---|---|---|
| 改善計画 | 学習習慣の定着をめざし、生徒にとって「わかりにくい」内容でもチャレンジする意欲をのばすため、小テスト・定期テスト・振り返りテストなどの課題の体系化を工夫するとともに、内容の精選をはかる。 | 授業のはじめに授業プリントに明示してある「ねらい（めあて）」について言及し、授業の終わりに振り返る活動を行うことを通じて、生徒が見通しを持てる授業の設計を行う。 | 教科の特性から、すでに知っている内容を重複して教えるということが多々ある。資料を用いて、違う視点から考えさせる授業を行っていく必要がある。（ディベート等） |
| 評価方法 | １　課題結果からうかがわれる学習習慣定着者の増加割合<br>２　課題達成率の向上<br>３　次回のアンケート結果の傾向 | 授業評価アンケートの結果を踏まえること。また、生徒が自身の活動や思考の深まりについて振り返る内容のワークシートを通じて授業者の授業改善の評価の一助とする。 | 授業評価アンケートの結果を重視し、「新たな気付きや発見、考えが広がったり深まったりする」ように授業計画を立て、実施する。 |